

2026年6月14日（日）第1礼拝「聖書的家庭」創世記2章21～25節

聖書的家庭は天国の家庭です。それは愛の共同体であり教会です。そこは、愛とあわれみによって自分が受け入れられ、過去の傷も癒され、ストレスも解消される場所です。

第一番目、家庭は犠牲によって作られます。神様はアダムのあばら骨を一つ取られた時、アダムは深い眠りにつき、霊の配偶者であるエバが造られました。あばら骨はいのちであり、深い眠りは死を意味します。アダムが死んだ時、彼の配偶者エバが造られました。つまり、家庭は犠牲によって作られるのです。イエス様は私たちのために天の御座を捨てて、この地に来られ、私たちの罪を背負って十字架にかけられました。ローマ兵がイエス様のあばら骨のあるわき腹を刺した時、水と血が出ました。あばら骨(いのち)のある所から水と血が出て、イエス様の花嫁である教会が誕生しました。教会はイエス様の犠牲によって作られたのです。アダムがエバに言ったのと同様に、イエス様も教会に対して「これこそ、わたしの骨からの骨。わたしの肉からの肉。」と言っています。

第二番目、二人は裸でしたが、恥とは思いませんでした。アダムとエバがいのちの木の実を食べていた時、愛の目で相手の裸を見ていました。しかし、二人が善悪の知識の木の実を食べた時、その目が開き、サタンの目になりました。サタンの目は相手を非難する目です。この目で相手を見ると、愛は冷め、家庭は壊れます。アダムとエバは相手の裸を見て、腰のおおいを作り、互いに非難したため、家庭は壊れてしまいました。そこで神様は動物をほふり、その皮をアダムとエバに着せられました。この動物の皮がイエス様の十字架の犠牲です。イエス様は私たちの罪を覆ってください、愛とあわれみの目、ビジョンの目(その人の将来の姿を見る目)で私たちを見てくださいます。「…わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだイスラエルよ。…『恐れるな。わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだエシュルンよ。』」（イザヤ44：1～2）神様は兄や父を騙したヤコブを選ばれました。そのヤコブをイスラエル(神に勝った者)と呼ばれ、更にエシュルンと呼ばれました。ヤコブのように私たちは足りない者ですが、神様は私たちの未来の姿を見ておられ、称賛してくださるのです。この称賛は祝福の声、神様の声であり、実際にその通りになります。夫と妻が互いに祝福し、称賛するなら、夫は力ある働きができ、妻も幸せになります。イエス様の愛とあわれみの目で相手を見て、祝福し、称賛することが、家庭の祝福なのです。

第三番目、イエス様だけが王である家庭です。イエス様が招かれて行われた初めての奇蹟は、カナの婚礼でした。足りないものはイエス様によって満たされ、水は葡萄酒に変わりました。葡萄酒は香りのある家庭を意味します。ミレーの『晩鐘』には、教会の鐘の音を聞いた夫婦が、イエス様の前に頭を垂れて祈る姿が描かれています。これは天国の家庭です。そこには、まことの喜びがあります。しかし、仮想世界(ポルノ等)からドーパミンを得るなら、夫婦生活は壊れてしまいます。イエス様を歓迎し、イエス様が王である家庭は、天国の家庭、最高に幸せな家庭になります。